



発行所

一般社団法人 全日本木材市場連盟
中山義治 1-7-12
編集・発行人 東京都区後楽区林友ビル6階
〒112-0004 林友ビル6階
電話 03(3818)2906
FAX 03(3818)2907
毎月1回1日発行
定価・年3,000円
(会員は会費に含まれています。)

安定供給に向け、関係者が会議

九州地区広域原木協議会 博多市

第1回九州地区広域原木流通協議会が3月26日(水)、博多市内で開かれた。

主催は、日本木材総合情報センター、全日本木材市場連盟、全国素材生産業協同組合連合会、全国森林組合連合会の4団体。参加者は、林野庁木材産業課、九州森林管理局、宮崎大学農学部...

会議では、林野庁の橋爪一彰課長補佐が、最近の国産材の需給を例にとり、「大型加工施設が整備され、需要増加に見合う供給体制づくりが必要となっている。木材市場や山側の結束が大切だ」として、国産材の需要拡大、供給安定に向けた林野庁の考え方を説明し、関係者の協力を要請した。

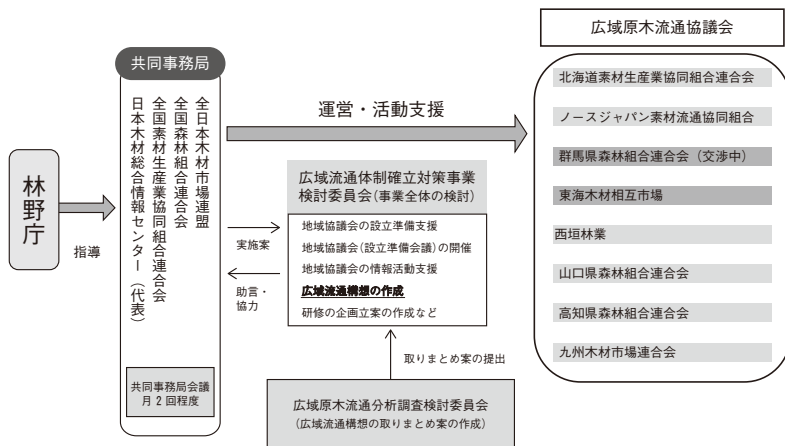
藤掛教授は、「国産材の安定供給の考え方」と題して講演。その中で同教授は、「安定供給」というより、需要変化への

対応力を持った供給が大切だ。需要量の季節・景気変動への対応が弱い現状がある。製材工場の川下対応力は、営業販売・製品開発力が不十分である。このような量変動への対応力のなさが価格の不安定を生んでいる」と持論を展開。国産材の安定供給には、「需要変動への対応力を高めるため、製材工場、素材流通業での生産・在庫調整やサプライチェーンの構築が大切である。また主伐再造林の普及定着が最終的な課題となる」と指摘した。

森林管理局の矢野彰宏森林整備部長は九州局の取り組みを、また各県担当者は、自県の国産材供給に向けた取り組みを報告した。今回の取り組みは、林野庁の25年度補正予算、26年度本予算によるもの(本誌4月号)。日本木材総合情報センターには、「広域流通体制確立対策事業検討会」が設置され、全国8地域の協議会の活動に対する支援や、広域流通構想の作成等に対する助言を行う。

地方では九州の会合を皮切りに、北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国でも協議会が設立され、地域の原木市場・需給見通しに関する情報の共有化、原木の広域流通の問題点や課題の整理、民有林と国有林との連携等による原木の

安定的・効率的な供給体制づくりのあり方の検討が行われる。図一事業の実施体制



さらに地区毎に調査委員が選任され、地区毎の原木流通の現状と課題を分析し、既存のデータをもとに今後の素材生産量と需要量の予測を行い、広域流通型の原木供給可能量、広域流通体制整備の基本方針等と内容とする広域流通構想を作成する。全市連は、全国8地域のうち中部、近畿、九州の3地域を担当。5月22日には中部地区、同27日には近畿地区で、地元の協力を得て、協議会を開く準備を進めている。

\*地域協議会の範囲は、森林管理局の管轄区域を基本に次のとおりとされている。○北海道地域 北海道、○東北 青森、秋田、岩手、山形、宮城、○関東 福島、茨木、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、○中部 長野、静岡、岐阜、愛知、新潟、富山、石川、福井、三重、○近畿 滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、○中国 鳥取、島根、岡山、広島、山口、○四国 徳島、香川、愛媛、高知、○九州 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄。

Table with 3 columns: 委員 (Committee Members), 開催回数 (Number of Sessions), and 主な議題 (Main Topics). It lists members from various organizations and details the agenda for the first and second sessions.

\*広域流通体制確立対策事業検討委員会

林野庁第4回木材需給会議

7月からの入荷は回復見通し

林野庁は3月末に平成13年度第4回の木材需給会議を開き、4月以降の需給見通しを策定した。消費増税の影響によ

主要木材の入荷量等の概要

	国産材丸太		輸入丸太	輸入製材品	合板	構造用集成材
	製材用	合板用				
25年計(実績)	12,229 (108)	3,000 (115)	4,517 (104)	7,703 (115)	6,462 (106)	2,226 (109)
26年1~3月 見込み	3,090 (104)	790 (110)	1,050 (94)	1,682 (98)	1,652 (104)	535 (108)
同4~6月 見通し	3,000 (96)	830 (105)	1,030 (80)	1,805 (85)	1,600 (95)	555 (95)
同7~9月 見通し	2,850 (99)	820 (111)	1,005 (101)	1,792 (85)	1,600 (101)	550 (95)

(単位:千m3)(括弧書きは前年比・前年同期比:%)

る入荷減は想定内としても、今年後半の7月以降の木材需要がどう予測されるか、関係者の関心の高いところだが、今回公表の要点は、次のとおり。

「4~6月は駆け込み需要の反動等により、国産材、輸入材ともに前年同期に比べて減少するが、7~9月の需要は、国産材は前年同期に比べて増加、輸入丸太、合板はほぼ前年並み、輸入製材品、構造用集成材は減少する見通しである。

なお平成26年度の新設住宅着工戸数は、住宅ローン減税の拡充、すまい給付金等が実施されるが、消費税率引き上げ前の駆け込み需要の反動等により、前年

に比べ減少する」(林野庁HPより) この問題は、次の記事にもあるとおり、四国で原木不足が生じるなど、地域差や樹材種による差があることを忘れてはならない。

第八十七回定期総会を開催

木材需給について情報交換

四国地区木材市場連盟

四国地区木材市場連盟(会長・秋山順一・高知県林材株式会社社長)は4月25日、サントピア岡山総社(岡山県総社市)で第87回定期総会を開いた。

出席者は、連盟所属の12社24名の役員のほか、来賓として四国森林管理局香川森林管理事務所真鍋 宏二所長、香川県環境森林部みどり整備課の穴吹 浩之課長補佐、同課の佐々木敬介副主幹、日刊木材新聞社大阪支社の向井千勝支社長が参加し、当連盟からは中山が出席した。

秋山会長は開会挨拶で、四国の木材需

給について、「自給率50%達成に向け、県のさまざまな取り組みが行われている。四国では大豊と小松島で大型製材工場が稼働する。またバイオマス発電が宿毛、高知、大豊の三カ所で計画されている」として、「これらの本格稼働により、四国4県で原木不足が生じ、地元の中小製材工場の原木確保に問題が出る恐れが高い。結局、原木市場の得意先が減少することに」と語った。

原木市場の役割等について、「流通経費削減のため、原木市場不用論が高まる」と指摘。「バイオマス発電の稼働は原材料不足が顕著となり、C材からB材への切り上げが進み、合板工場はB材からA材へ使用木材のグレードを切り替えざるを得ない事態が想定される」と語った。(議事)

平成二十五年度事業報告・同決算報告、平成二十六年事業計画・同予算案が提案され承認された。また四市連の次期会長に、香川県の樋口高良氏(太平洋木材社長)が就任し、次年度総会は徳島県が担当することが決定した。



全市連事務局長の中山は、次の資料を配布し、要点を説明した。

- ① 26年度全市連事業計画について、② 木材利用ポイント事業について、③ 合法木材取扱現場調査票について、④ 労安則の一部改正について、⑤ 木質バイオマス事業について、⑥ 木材市場の現況等に関する調査について、⑦ 広域原木流通協議会の開催について、⑧ 業界紙記事「信頼を失墜した桧製材材」について。

◇日刊木材新聞社の向井支社長による国産材概況。

向井社長は、13年下期から14年2月にかけての木材価格の変化について、「需要拡大と価格高騰はほぼ想定どおりだが、素材生産現場の人手不足、山主の伐採マインドの欠如は想像以上だ」としたうえで、四国の国産材加工工場の増設に伴う原木不足の概況を語った。紙面の制約があるので一部のみの紹介となる。

おおよそ製材(高知)は、第2段階10万~12万m<sup>3</sup>、ナイス徳島製材工場も第2期は7万2千立方、スナダヤ(愛媛)はラミナ購買を含め8万m<sup>3</sup>などと、四国内の原木消費量が増加する。高知県から愛媛県南部へのヒノキ丸太の出荷、高知嶺北から徳島県内製材工場へ供給されていたスギ原木、年間10万m<sup>3</sup>の供給はほぼ途絶えた。九州でも大型国産材製材工場が増加しており、10万m<sup>3</sup>超えの事業所が10社前後はある。その宮崎で36万m<sup>3</sup>を挽く国内最大の工場が建設開始され、年内には製材開始の予定。宮崎県は13年165万m<sup>3</sup>の原木生産だが。

四国内の丸太需要増は、中国地区、九州地区との争奪戦の様相を呈してお



り、愛媛県勢による大分県内での丸太買付に地元が猛反発するなどの状況も見られる。

木材利用ポイント事業は周知度が低いものの、国産材活用の木造軸組みの増加を促す効果があった。施策のなかで、評価が高いのが、地域型住宅ブランド化事業であり、地域工務店による国産材活用の原動力になった。四国は、ゆにっと四国(高知県中小建築業協会)が中心になり、全国でも最多の補助金配分となっている。その影響で、四木造軸組みプレカットの国産材使用比率は上昇している。

なお、ヒノキ一般材丸太、構造物製材の暴落は身から出た錆ともいえる。木造住宅の主要部材はプレカット加工が主体になっているのに、供給側はきめ細かな納入ができず、国産材構造物等の納期遅れで在庫が底をつき、欠品に伴う工場操業停止にまで発展した。相場の不安定性もあるが、量の安定が守れないため、一気に代替材へ移行した。今回のつけは大きく、ヒノキKD構造物材の失地回復は相当苦労する。

関西地区は、オービス姫路工場閉鎖で月間1万14千mのNZ材梱包、パレット製材供給が停止し、代替製材確保でスギの引き合いが急拡大している。関西圏の木質パレット製造大手の滋賀県の会社は、オービスからの材がないので、北海道産カラマツ製材の手当てを拡大している。合板、集成材、梱包材が活発な動きになっており、B材の優先顧客を占めている。

続いて参加者より、四国各県の市況動向について情勢報告が行われた。

翌27日(土)は、日本三大庭園として知られる後楽園などを視察した。

### 25年度全市連会長賞を決定

平成25年度全市連功労者表彰については、各支部から候補者の推薦を頂き、3月19日(月)に開催した全市連功労者表彰審査選考委員会(正副会長・支部長で構成)で、次のとおり決定した。5月19日(月)開催の第59回総会・東京大会の席上で表彰状を贈呈する。受賞者の皆様、心よりお慶び申し上げます。

- 【関東北】白石 禎彦(奥久慈木材流通センター、福島)、嶋川 修(茨城木材相互市場、茨城)、福田 進充(宇都宮総合木材市場、栃木)、鈴木 順一(長狭木材工業、千葉)、【関東】廣木 俊一(廣木材木店、東京)、【東海】吉沢 洋、ナイス長野市場、長野)、甲斐 隆治(ナイス沼津市場、静岡)、鈴木 里始、瀬瀬 進(以上、東海林材市場、愛知)宮脇 昌美(マルタピア協業組合、三重)、【近畿】山下 智二郎、立川 智子(以上、大阪木材相互市場、大阪)、【四国】東條 順二(丸幸産業、徳島)、【九州】上田 啓二(大分県木材協同組合連合会、福岡)、伊東 貴樹(伊万里木材市場、佐賀)、梶原 幸成、中野 照雄、矢幡 正喜(以上、日田中央木材市場、大分)、【一】は支部名。

### 木材アドバイザー合格者を決定

当連盟は3月27日(木)、日本森林林業振興会会議室で、「木材アドバイザー審査委員会」を開催した。委員会には日本木材・合板博物館の岡野健館長、東京

都市大学の大橋好光先生など講師各位、当連盟の中山が出席し、今年2月に東京大阪会場で開催した「平成25年度木材アドバイザー養成講習会」の合格者74名を決定した。合格者の氏名は、全市連のホームページに掲載する。また問い合わせがあれば、名簿の提供を行う。

- 栗山 陽平(宮城)、押田 洋平(福島)、末永 泰仁(福島)、河野 一郎(茨城)、寺嶋 宏行(茨城)、廣木 至美(茨城)、山川 浩二(茨城)、岩岡 良修(栃木)、印出井喜始(栃木)、白井 克和(栃木)、内田 勝美(栃木)、津久井 大雄(埼玉)、葛西 守文(千葉)、加藤 雄三(千葉)、毛利 秀彦(千葉)、矢野 昌秀(千葉)、青野 裕介(東京)、内田 幸児(東京)、江川 大輔(東京)、大谷 恵理(東京)、小川 純司(東京)、柏倉 伸弥(東京)、川崎 貴夫(東京)、北嶋 誠一(東京)、日下部達也(東京)、近藤 辰也(東京)、須原 一浩(東京)、田中 季彦(東京)、田野 巧一郎(東京)、新里 年伸(東京)、平内慎太郎(東京)、堀口 貴宏(東京)、和田 卓己(東京)、湯山 友和(神奈川)、石田 達亮(愛知)、栗山 高之(愛知)、飯塚 大輔(長野)、関口 将司(新潟)、永井 弘(新潟)、岡崎早貴江(石川)、久保 敦子(三重)、初田 幸穂(滋賀)、平塚 常次郎(滋賀)、木村 泰二(京都)、柴田 繁(京都)、清水 春好(京都)、仲矢 順子(京都)、堀井 誠二(京都)、池末 英一(大阪)、伊藤 貴博(大阪)、岩城 勝啓(大阪)、上田 益稔(大阪)、大谷 幸介(大阪)、柏原 勤(大阪)、加藤 優一(大阪)、金田 計示(大阪)、北尾 昌也(大阪)、楠瀬 徹(大阪)、

作部屋雅稔(大阪)、高橋 直哉(大阪)、瀧口 誠(大阪)、堂田 竜一(大阪)、長町 努(大阪)、南部 隼人(大阪)、南部 隆三(大阪)、西尾 大(大阪)、畑井 敏宏(大阪)、三瀬 耕一(大阪)、村上 克也(大阪)、毛利 奏介(大阪)、毛利虎之助(大阪)、藤原 一三(兵庫)、高橋 利幸(福岡)、竹下 忠利(宮崎)。

### 「木材アドバイザー養成講習会」を受講して

大阪木材相互市場業務部 金田計示  
大阪木材相互市場は、国産材・外材を取扱う複式の製品市場で、私は木材部門の仕事を担当しています。林業・木材・建築の知識を深めるため、この講習会に参加しました。

森川靖先生の講義「地球環境保全と森林・木材利用」で、地球が誕生以来の46億年の年月を1年間のカレンダーに置き換えた説明は、地球の歴史を身近に感じさせました。そのカレンダーで7月20日(約20億年前)に光合成をする藻が出現し、二酸化炭素に覆われた地球で酸素放出が始まり、その後何億年もかけて生物が住める環境が作られました。それが人類の生活向上のため、短期間で破壊されているかと思うと、複雑な気持ちになります。また熱帯林の再生がこれほど難しく、せっかく緑化してもそれが燃やされて農地に転用されているとは思いませんでした。この講義で、地球環境を守るには森林が必要であり、これを人間が管理し木材利用を進めることが重要だということ学びました。

遠藤日雄先生の講義「世界の木材需要の動向と日本の木材需給の見直し」で、日本の林業・木材産業は、重大な局面あることを学びました。A材主役の柱取り林業か、D材を使用する木質バイオマス主役の林業か、いま大変難しい岐路に立たされているのです。2015年の消費税増税の影響で、住宅着工戸数が激減する恐れがある一方で、木質バイオマス発電の本格稼働の年でもあり、燃料用木材が丸太換算で800万mも必要になるという話には驚きました。価格の高いA材の需要が減り、価格の安いD材の需要が増えれば、森林再生の費用が得られず、さらに植林が進まない可能性がありま

す。木材価格を維持する取り組みも行われていますが、今の林業・木材業界が抱える問題の大きさを感じました。

赤堀楠雄先生の講義「日本の林業の動向と課題」は、木材業界と一般の方の林業や木材に対する思いの違いを感じました。「木の家に住みたい」人が8割いる反面、森林に災害防止や地球温暖化防止は期待しているが、森林を維持するため木材生産にはあまり関心がない。家に

築側の期待」は、建築材料としての木材の特徴が鉄鋼やコンクリートに比べ、優れている点がある一方で弱点も多いが、その弱点も設計や乾燥、使用目的などの対策をすれば建築材料として問題はないことを知りました。建物については木造住宅は鉄筋コンクリート造りに比べ、地震や風に弱いと言われてきましたが、明確な基準がなかったからそのような考えられていただけで、壁をバランスよく配置することで、木造住宅は強い建物になることに驚きました。この講義で、木材利用促進法の施行後、建築側の木材に対する期待が大きくなっていると感じました。

岡野健先生の講義「木材の構造と性質」では、針葉樹と広葉樹は葉の形や樹形の違いがあるだけでなく、誕生の歴史や細胞の違いがあるといった専門的なお話しが聴くことができ、とても興味深く感じました。また木材を建築材などで使用する場合の問題点もよく理解できました。水気がない場所でも金属と触れていると、温度差で結露がおきて木材は腐ることもあるとは驚きです。

杉山淳司先生の講義「ハンドレンズによる木材の見分け方」は、15種類の木材見本をハンドレンズで観察し、岡野先生

の講義にあつた針葉樹と広葉樹の違いを明確に理解できました。実物に触れカッターで削ることで、木の重さや質感の違い、堅さの違いを知りました。製材品だけでは、気付かなかったが解り、これまでに以上に木を身近に感じました。

公共建築物等木材利用促進法の施行により、燃え代設計や大断面の集成材の使用で、比較的大規模な建物を木造で建設

できるようなつたことは知っていました。大橋好光先生の講義「木造建築・木造住宅を知る、木造住宅を科学する」で、木材の許容応力や建物に加わる力など、いろんな項目があることを学びました。また構造設計・壁や床・接合部の設計に

雑 記 帳

マイクrosoft社のネット閲覧ソフト「インターネットエクスプローラ(IE)」に未修正の欠陥が見つかり、米国政府機関がその利用をやめるよう、警告するなど異例の騒ぎになっている。

▽ネット閲覧ソフトとは、インターネットを見る窓の働きをするもの。「ウインドウズ」搭載のパソコンにはIEが入っている。IEを使って、攻撃プログラムが仕掛けられたサイトを見ると、パソコンに外部からの侵入口が開き、そこが攻撃を受け情報漏洩などにつながる恐れがあるという。米国では金融機関などで被害が発生し、日本でも昨年被害が発覚した。▽85年の販売開始以来ウインドウズは、世界市場で大きなシェアを占めてきた。同社の商品開発や販売手法は、国によって独禁法の提訴を受けたりしたが、日本では操作性やアプリの互換性の良さが評価され、官民で多用されている。▽これまでも同社は、ソフトの欠陥を補い、ウイルスから利用者

(中山)